

『カスタマイズ型アプリケーション・システムの販売』を企画

貴社益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

あらゆる分野で情報の電子化が進行し、それらの資源はあらゆる壁を越えて飛び交っています。

かつて70年代、企業のOA化ための「オフコン」といわれる小型電子計算機が中小企業に導入されました。

そして80年代の「パソコン・ウォーズ」といわれた戦国時代を経てインターネットという武器をもったパソコンが勝ち残り、いまやパソコン利用のない企業の存立は考えられません。

しかし最近、地方における中小の企業や個人ビジネスユーザにとって最も重要であるべき"業務用のOAソフト"は、既成の流通の「パッケージソフト」を利用するケースが多く、特に中小企業や個人ユーザの特性やニーズが生かされていない現状です。

あんなことができるのに、うちの会社のこんな簡単な事ができない？

また Windows がレベルアップした？ 機械とソフトを入れ替える？

いままでの蓄積したデータはどうなるの？

コンピュータって、ようわからんけど、

機械をつくる側とソフトを売る側の論理だけがまかり通り、

使う側の論理が体よく無視されているのではないか？

自社でオーダー・ソフトを造るとなると、人と費用と時間がかかり過ぎる

コンピュータを入れるときは、こんな話じゃなかったのに……

企業のオーナーや管理者から、こうした「冷めた声」をよく耳にします。

また、信頼できる調査機関の最近の報告では、

いろんな「OAパッケージソフト」や、Windows と抱合させた「CASEツール」が発表されるたびに、多くのメディアでその評価が紹介され、一般ユーザやソフト・ハウスがこれらにチャレンジするものの、満足のゆく成功例は極めて少なく、パソコン・ユーザの試行錯誤は当分つづくものと考えられる。

—— 大阪大学 基礎工学研究所の調査資料から ——

そしてまた、ソフト・ウェアを開発提供する側のソフト業界も、従来の開発手法から脱皮することが出来ず、OAソフト業界の長い冬の時代が続いています。

こうしたパソコンソフト業界を取り巻く環境の中、このたび私の永年の"ビジネスアプリケーション開発"のノウハウから、

『カスタマイズ型アプリケーション・システムの販売』を企画いたしました。